

師走となり何かと慌ただしい年の瀬をお迎へのことと思います。1年間の当会の活動を振り返りますと、高碓達之助翁に関しての勉強会、関連施設の見学等が印象に残っています。当会に入会して高碓翁の満州時代の活動を知り、敗戦後の日本人の無事帰還に尽力され、評判の良くない満州時代の日本人の中でも“日本人を救った経済人”として評価されていることを嬉しく思いました。また、4月に御母衣ダム建設に伴い湖底に沈むはずだった“荘川桜”に関して、当時のことをよく知る林子平さんのお話を聞き、満開の桜を見られたことが深く印象に残っております。来年は他の名誉市民の方々と富田生まれの大宅壮一氏の生涯活動への理解を皆さんと共に深めて行きたいと思っております。(藤川佳三)



高槻市マスコットキャラクター「はにたん」

### ■講演会「高碓翁と東岳スピリッツ」を聞いて

11月28日“高槻名誉市民を語り継ぐ会”主催のイベント「高碓翁と東岳スピリッツ」副題『高碓達之助は創業した東洋製罐で如何にその精神を实践したか』の講演会に出席しました。語り部：甘田外成氏(東洋製缶(株)前専務取締役)は実際現場で経験を積まれた話で迫力があり、盛況のうちに(参加者40名程)終了しました。

今日の語り部のお話の中で私が一番印象に残ったのは単なる起業家の器を越えて本物の国際政治家として名を轟かせた片鱗は実姉への心情発露として“私を楽しませ勇気を与え、生きる力を与えるものは、北カ、フィリピンにいたる太平洋とその利用という希望の光です。…”と語った事、そしてそれこそが[淀川を遊び場とした(水)の遺伝子]ではなからうか?という語り部の主張でした。まさに“眼から鱗”楽しい一時でした。(宮本義秋)〈詳細裏面〉



### ■“いきいきサロン”(北阿武野福祉委員会主催)でお話を。11月18日

阿武野CCで高槻名誉市民“高碓翁”のお話をさせていただきました。この会は“いきいきサロン”といわれ、地区役員やボランティアと参加者が共同企画し運営していく楽しい仲間づくりの会です。

今回は、その中の一つのイベント＝勉強会として、郷土の偉人であり高槻名誉市民の高碓翁のお話でした。講師は我会の北村正信氏(前茨木高校教師)が行いました。初回ですので、高碓達之助の総集編としてのお話で味を持たれたのは、高碓が救った荘川桜と、名言としては「古きものは古きが故に尊い」でした。



### ■「ひとり暮らし高齢者食事会」でお話を。11月15日

西大冠地区福祉委員会の主催でのイベントとして行わせていただきました。

内容は、高碓翁がダム建設のため廃墟になる村の桜を救ったお話です。故郷(柱本)を愛する高碓翁には、故郷を想う御母衣の人々の心情が痛いほど理解でき、村人が故郷を思い帰ってきたときに、心の糧とできる桜を何とか残そうと移植を実施しました。‘イベント終了後はスタッフで作られた昼食を頂きました。7種類もあり素朴な味で完食しました。なお、参加者は99%女性でした。(H.M)

### ■“にこにこ広場”でお話を。11月2日

西大冠小学校区の放課後子供教室(にこにこ広場)でお話させていただきました。児童50人弱と飛び入り参加のお年寄り10人ほどでした。

内容は「すばらしいふるさと(高槻)いまむかし」で、高槻名誉市民である磯村翁と高碓翁の話です。磯村翁に関しては、堤防を守った話とすばらしい高槻市を作った話、高碓翁に関しては、柱本での暮らしと、ダムに沈む荘川桜を救った話でした。

子供達は手を挙げ、答え、質問もありました。元気なのは今も昔も変わりません。(H.M)



【連絡先】 馬淵晴彦 FAX:072-689-3674  
メール:h\_mabuchi@office.zaq.jp